

2024年度事業計画(案)

(2024年4月1日から2025年3月31日まで)

はじめに

昨年度はコロナが2類から5類になり、社会・経済活動が正常化する一方、世界的に戦争や気候危機の影響もあり、物価高騰が続いて、だれでも生活困窮に陥る社会状況のなか困窮世帯の生活困難をさらに悪化させた。一方で国内では年間523万トンの食品がまだ食べられるのに廃棄されています。

フードバンク狛江は、狛江市と「食料支援の連携に関する年度協定書」(2024年4月1日付)に基づき、今年度も食品ロス削減と地域での食の分かち合いを呼びかけ、必要とする食の支援を地域で支え合うことで、少しでも市民が食に困ることなく、安心して暮らせるよう、本事業を取り組んでいきます。

2024年度の事業計画は、国や行政の対応等により、不確定要素もありますが、事業別に基本的な方針として提案し、具体的には理事会決定により執行していきます。

1、フードバンク事業

- 狛江市の生活困窮者自立相談支援に、食料提供を継続できる食品の確保に努めます。
- 子育て家庭への食料支援の拡充のために、必要な食品の確保を図ります。
- 非営利で活動する地域の福祉施設・団体に、少しでもその活動の支えとなるよう、ロス食品や未利用食品を活かして食品提供に努めます。またフードバンク活動への理解を広げる活動として進めていきます。
- 市役所入口の増設を含め、市内10カ所の食品寄贈ケース設置場所や、西野川倉庫及び市庁舎作業所での食品寄贈を増やすために、広報等により寄贈を呼びかけます。また寄贈ケース設置場所の拡大を図ります。
- イベントでのフードドライブは、6月「狛江市環境月間こまエコ祭り」に参加し、食品寄贈を呼びかけます。
- 生活協同組合4団体(東都生協、パルシステム東京、コープみらい、生活クラブ生協)と連携を強め、フードドライブが実施される場合の協力や、イベント参加による食品寄贈を呼びかけます。
- 地域の企業・団体、市民に食品ロス削減を呼びかけ、フードドライブやフードバンクの周知広報、協力を求めています。 <参考>食品ロスの現状 <https://www.no-foodloss.caa.go.jp/whats.html>
- 全国フードバンク推進協議会や東京都未利用マッチングシステム、東京都生協連、こどもサポート証券ネットなどのマッチングシステムを活用し、また直接つながっている企業・団体からの寄贈提案に、適切な受入れを図ります。

2、食のセーフティーネット事業

- 福祉相談課、生活困窮者自立相談窓口こまYELLとの連携を図り、予想される食料支援の増加に対応します。
- こまエールの行う学習支援や子ども若者政策課のひとり親家庭向け学習支援を受ける子どもたちに、勉強

の励ましとなるよう、お菓子や飲料の提供を年4回（夏休み、ハロウィン、クリスマス、春休み時期）実施します。

- 学校給食のない時期の子育て世帯への食料支援は、子ども若者政策課と連携したひとり親子育て応援と、学校教育課と連携して就学援助受給世帯に周知し、夏8月・冬12月・春3月に食品提供を実施します。
- お米等、寄贈食品の在庫状況により、子育て応援世帯を対象に、適宜「おすそ分けお渡し会」を実施します。
- スクールソーシャルワーカーやコミュニティソーシャルワーカーをはじめ、地域の支援団体との連携関係を強めていきます。
- 電話や SNS などで連絡のあった食料支援 SOS には、他都市の場合、該当する地域の行政や支援団体を紹介するとともに、必要と認められる場合、一回のみを基本に支援対応をしていきます。市内はこま Y E L L につなぐ。

3、フードバンクの普及・啓発事業

- 10月食品ロス削減月間に、「フードバンク活動でつながる狛江の団体交流会」を開催し、食品の寄贈団体とその食品を活用する支援団体との交流を図り、食品ロス削減とフードバンク活動の理解を深めて行く機会をもちます。
- 繋がった子育て世帯に、子育て応援として食料支援だけでなく様々な体験会や見学会等を通じて少しでも親子と親同士での交流を図ります。
- ホームページ、facebook、Twitter など SNS の活用を積極的に行う。また、紙媒体によるニュースレターを年4回発行、チラシの作成・配布や新聞、テレビ、ラジオ、タウン誌による広報に努めます。
- フードバンクを持続可能な活動として行くために、地域の「食の分かち合い」のシステムづくりを諸団体とともに進めていきます。

4、団体の持続可能となる組織運営と団体基盤の確立について

- 現状の事業規模を維持し、安定した持続可能な団体運営のため、役員や有償スタッフを配置できるよう財政基盤の確立に努めます。また必要な助成金・補助金を獲得していきます。
- 財政基盤の確立のため、連携団体や支援者への会員・賛助会員（個人・団体）の加入促進を図るとともに、地域の企業・商店への訪問活動による賛助と寄付の呼びかけを積極的に行います。
- 西野川事務所/倉庫と市庁舎作業所の活動を役員・事務局スタッフで中心的に担い、ボランティアの計画的な参加とフードバンク活動や食品取り扱いの担い手づくりを進めます。また、ボランティアの募集に取り組みます。
- スタッフとボランティア同士の繋がりを大切にし、フードバンク活動をより知ってもらう研修を実施して行きます。
- 理事会・事務局・ボランティアの役割分担をして、団体員相互の協力で効果的な組織運営に努めます。
- 組織運営の課題解決に、理事・事務局スタッフによる課題別検討を進めていきます。
- 組織運営に関わる諸規定を整備し、組織基盤の確立を図ります。
- フードバンクを地域の仕組みとして確立するために、関係団体による協議会設置を模索していきます。
- 近隣フードバンクとの交流と連携を図ります。

